消防のあゆみ

昭和２９年１１月　町村合併で１町７か村（鳥羽町・加茂村・長岡村・鏡浦村・桃取村・答志村・菅島村・神島村）が合併し鳥羽市となり、旧町村消防団も合併して鳥羽市消防団が発足する。
１団９分団、団員数７２５人。
昭和３０年　１月　加茂分団第２部、長岡分団第２部に手引動力ポンプを配備。
３月　消防団本部に消防ポンプ自動車を配備。
６月　消防団員の定数を改め６４９人。
鏡浦分団に小型動力ポンプを配備。
１０月　菅島分団に小型動力ポンプを配備。
昭和３１年　１月　県知事・県消防協会会長から竿頭綬を授与される。
１２月　長岡分団第３部に手引動力ポンプ、長岡分団第４部・第５部、鏡浦分団第１部、桃取分団第３部に小型動力ポンプを配備。
昭和３２年１１月　長岡分団第１部、坂手分団第１部に小型動力ポンプを配備。
昭和３３年　３月　畔蛸町、石鏡町、千賀町、鳥羽町に防火水槽を新設。
４月　杉田寅之助氏から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、鳥羽分団第４部に配備。
７月　第２回三重県消防操法競技大会に出場し努力賞を受賞。
１０月　答志分団第１部、第３部に小型動力ポンプを配備。
１１月　菅島分団第１部に手引動力ポンプを、坂手分団第２部に小型動力ポンプを配備。
菅島町に防火水槽を新設。
昭和３４年　２月　三重県消防大会を開催、日本消防協会長から表彰旗を授与。
７月　第３回三重県消防操法競技大会に出場し優勝。
８月　中部７県消防操法競技大会に県代表として出場し、第４位に入賞。
１１月　消防団本部、加茂分団、鏡浦分団第３部に小型動力ポンプを配備。
昭和３５年　２月　加茂分団第５部に手引動力ポンプを配備。
１１月　菅島分団第２部に手引動力ポンプを配備。
国崎町、石鏡町に防火水槽を新設。
昭和３６年　２月　鳥羽分団第２部に消防ポンプ自動車を配備。
１１月　鳥羽分団第６部、鏡浦分団第２部に小型動力ポンプを配備。
昭和３７年１１月　鳥羽町字大里に防火水槽を新設。
消防団本部に消防ポンプ自動車を配備。
昭和３８年　３月　菅島町に防火水槽を新設。
１１月　鳥羽市消防本部を設置、職員７人で発足、消防ポンプ自動車とジープを配備。
神島町に防火水槽を新設。
桃取分団第３部に小型動力ポンプを、答志分団第１部に手引動力ポンプを配備。
昭和３９年　７月　消防団員の定数を改め６１０人。
８月　長岡分団第１部に、消防ポンプ自動車を配備。
１０月　鳥羽ライオンズクラブから救急車（ニッサン・セドリック）の寄贈を受け、消防本部に配備。
１２月　鳥羽町（本町）に防火水槽を新設。
昭和４０年　６月　答志分団第３部に手引動力ポンプを配備。
７月　菅島分団に小型動力ポンプを配備。
９月　消防用無線機（基地局）を消防本部に、移動局を消防ポンプ自動車に設備。

昭和４１年　４月　答志分団第２部に手引動力ポンプを、鏡浦分団第３部に小型動力ポンプを配備。
　　８月　加茂分団第４部に消防ポンプ自動車を配備。

昭和４２年　４月　消防署を開設。
　　５月　(社)日本損害保険協会から火災保険号（中型消防ポンプ自動車）の寄贈を受け、消防署に配備。
　　６月　消防団員の定数を改め５９５人。
　　８月　鏡浦分団第１部、長岡分団第５部に小型動力ポンプを配備。
　　１０月　相差町に防火水槽を新設。
昭和４３年１０月　鳥羽分団第５部に消防ポンプ自動車を、坂手分団、神島分団に小型動力ポンプを配備。
　　１２月　菅島町に防火水槽を新設。
昭和４４年　８月　加茂分団第１部、答志分団第１部、長岡分団第１部、菅島分団第１部に小型動力ポンプを配備。
　　９月　水槽付消防ポンプ自動車（１，５００リットル・Ａ２級）を消防署に配備。
昭和４５年　９月　三重県と共催で、総合防災訓練を実施。
　　１２月　磯部町・阿児町・浜島町・大王町・志摩町との間で消防防災業務相互応援協定を締結。
　　１２月　(社)生命保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
昭和４６年　５月　鳥羽市防火協会発足。
　　７月　鳥羽海上保安部との間に消防業務協定を締結。
　　１０月　消防本部・署庁舎が船津町に落成。
　　消防無線を超短波に切り替える（基地局１、移動局２）。
昭和４８年　３月　第２４回三重県消防大会を開催。
　　９月　志摩広域消防組合と消防防災業務相互応援協定を締結。
昭和４９年　６月　鳥羽分団第３部に消防ポンプ自動車を配備。
　　７月　第４回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
昭和５０年　２月　(社)日本損害保険協会から救急車の寄贈を受け、消防署に配備。
　　７月　第５回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
　　消防無線を増強（基地局１、移動局６）。
昭和５１年　１月　消防ポンプ自動車（いすず・エルフＢ１級）を消防署に配備。
　　７月　第６回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
　　１０月　(社)日本損害保険協会から火災保険号（消防ポンプ自動車Ａ２級）の寄贈を受け、消防署に配備。
昭和５２年　３月　消防庁長官表彰旗を受賞。
　　７月　第７回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
　　８月　県操法競技大会に志摩支部代表として出場し、自動車の部で準優勝。
　　１０月　消防無線を増強（基地局１、移動局１０）。
昭和５３年　７月　答志分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和５４年　２月　神島分団に据付ポンプ（ディーゼル１３５ＰＳ・Ａ１級）を配備。
　　７月　第８回志摩支部操法競技大会で、自動車の部・小型動力ポンプの部共に優勝。
　　７月　鳥羽分団第４部に普通ポンプ自動車、菅島分団に手引動力ポンプを配備。
　　８月　鏡浦分団第１部に小型動力ポンプ付積載車を配備。
　　８月　県操法競技大会に志摩支部代表として出場し、自動車の部で準優勝。
昭和５５年　２月　長岡分団第２部に小型動力ポンプ積載車を配備。
　　７月　加茂分団第５部に小型動力ポンプを配備。
　　９月　鏡浦分団第３部に小型動力ポンプ付積載車、答志分団第４部に消防ポンプ自動車を配備。
　　９月　(財)日本船舶振興会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。

昭和５６年　２月　離島に消防無線電話装置を配備。
　　７月　答志分団第３部、坂手分団、菅島分団に小型動力ポンプ、加茂分団第１部に普通ポンプ自動車を配備。
昭和５７年　７月　桃取分団、神島分団に小型動力ポンプを配備。

昭和５８年１０月　鳥羽分団第５部に普通ポンプ自動車を配備。
　　１２月　答志分団第３部、桃取分団に小型動力ポンプ付積載車（軽）を配備。
　　１２月　消防署に２４ｍ級はしご付消防ポンプ自動車を配備。
昭和５９年　７月　長岡分団第５部、菅島分団に小型動力ポンプ付積載車（軽）、鏡浦分団第１部、答志分団第４部に小型動力ポンプを配備。
　　８月　長岡分団第３部に小型動力ポンプ付積載車(軽)、広報車(軽)を消防本部に配備。
昭和６０年１０月　加茂分団第６部、神島分団第１部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を、坂手分団に手引消防ポンプを配備
昭和６１年　２月　危険物災害防ぎょ体制の充実を図るため化学消防ポンプ自動車（Ａ２級）を消防署に配備。
　　８月　加茂分団第４部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
　　１０月　鳥羽市危険物安全協会発足。
　　１２月　(財)日本自動車工業会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
昭和６２年　９月　鳥羽市防火協会から消防広報車（資機材搬送車）の寄贈を受け、消防本部に配備。
　　１０月　鳥羽分団第６部、加茂分団第３部に小型動力ポンプ付積載車を、長岡分団第４部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を配備。
昭和６３年　８月　菅島分団に小型動力ポンプ付積載車（軽）を、神島分団に小型動力ポンプを配備。
　　１２月　救難用救命ボート（船外機付）２艇を消防署に配備。

平成　元年　２月　(社)日本損害保険協会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
　　３月　消防無線（移動局２２基）を増強。
　　三重県下消防相互応援協定を締結。
　　１０月　消防団本部に人員搬送兼災害対応車（４WD、８人乗り）を配備。
　　１１月　長岡分団第１部に小型動力ポンプを配備。

平成　２年　８月　(財)日本消防協会から消防指令広報車の寄贈を受け、消防本部に配備。
　　９月　加茂分団第２部に小型動力ポンプ付積載車、鏡浦分団第３部に小型動力ポンプを更新配備。
　　１２月　(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプの寄贈を受け、菅島分団第３部、神島分団に配備。

平成　３年１１月　加茂分団第５部に消防ポンプ自動車を配備。
　　答志分団第３部に小型動力ポンプを更新配備。

平成　４年　３月　(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、答志分団第１部に配備。
　　４月　鳥羽分団第１部・２部を統合し、鳥羽分団第２部とする。
　　７月　県操法競技大会に、志摩支部代表として小型動力ポンプの部に出場。
　　１１月　(社)日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
　　鳥羽分団第２部に消防ポンプ自動車を更新配備。

平成　５年　３月　三重トヨタ自動車(株)から救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
　　４月　三重県防災航空隊１名派遣（２年間)。
　　１０月　答志分団第３部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
　　１２月　長岡分団第１部に消防ポンプ自動車、長岡分団第２部に小型動力ポンプを更新配備。

平成　６年　２月　事務連絡車を消防本部に配備。
　　３月　高規格救急自動車を消防署に更新配備。
　　７月　県操法競技大会に南勢支部代表として自動車ポンプの部に出場。
　　１１月　答志分団第２部に消防ポンプ自動車、桃取分団第２部に小型動力ポンプ付積載車、坂手分団第３部に小型動力ポンプを更新配備。

平成　７年　１月　阪神淡路大震災発生に伴い、神戸市に救援隊を派遣。
　　５月　鳥羽市危険物安全協会を鳥羽市防火協会に統合。

平成　８年　２月　鳥羽分団第３部に消防ポンプ自動車、長岡分団第２部に小型動力ポンプ付積載車、鏡浦分団第３部に小型動力ポンプを更新配備。
　　１１月　救急救命士養成。
　　１２月　菅島分団に消防ポンプ自動車を配備。

平成　９年　１月　鏡浦分団第１部、神島分団に小型動力ポンプを更新配備。
　　３月　第４８回三重県消防大会を開催。
　　神島町に耐震性防火水槽を新設。
　　７月　潜水士を２人養成、潜水用資機材（２基）を消防署に配備。
　　９月　答志町和具に耐震性防火水槽を新設。

平成１０年　３月　消防署に消防ポンプ自動車、鏡浦分団第２部に小型動力ポンプ付積載車、坂手分団に小型動力ポンプを更新配備。
　　５月　救急救命士養成。
　　１１月　桃取町に耐震性防火水槽を新設。
　　１２月　(社)日本損害保険協会から全自動小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、桃取分団第２部に配備。

平成１１年　３月　(財)日本消防協会から救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。
　　６月　潜水士を２人養成、潜水用資機材（２基）を消防署に配備。
　　１１月　救急救命士養成。
　　１２月　答志分団第２部に消防ポンプ自動車を更新配備。

平成１２年　３月　菅島町に耐震性防火水槽を新設。
　　６月　潜水士を２人養成、潜水用資機材（１基）を消防署に配備。
　　７月　県操法競技大会に南勢支部代表として小型動力ポンプの部に出場。

平成１３年　２月　神島分団に消防ポンプ自動車を配備。
　　(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプの寄贈を受け、坂手分団に配備。
　　３月　坂手町に耐震性防火水槽を新設。
　　４月　鳥羽市防火協会からレコーディングレサシアン(蘇生訓練用人形)、スモークマシンの寄贈を受ける。
　　鳥羽市消防団長が、三重県消防協会南勢支会長に就任。
　　１０月　鏡浦分団第３部、加茂分団第１部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。

平成１４年　１月　石鏡町に耐震性防火水槽を新設。
　　２月　消防団研修センター及び鳥羽分団第３部格納庫完成。
　　３月　消防用無線機（基地局）を消防署に更新配備。
　　４月　鳥羽分団第３部、４部を統合し鳥羽分団第３部とする。
　　４月　消防団員の定数を改め５５０人。
　　６月　潜水士を２人養成。潜水用資機材（１基）を消防署に配備。

平成１５年　３月　長岡分団第５部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
　　９月　潜水資機材（１基）を消防署に配備。
　　９月　高規格救急車を消防署に更新配備。
　　１１月　救急救命士養成。
　　１２月　(社)日本損害保険協会から全自動小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、菅島分団第１部に配備。

平成１６年　３月　答志町に耐震性防火水槽を新設。

平成１７年　３月　桃取分団第３部格納庫を新築。長岡分団第３部、桃取分団第１部に小型動力ポンプ付積載車、菅島分団第３部、坂手分団第２部に小型動力ポンプを更新配備。
　　８月　膨張式エアーテント（１基）を消防本部に配備。
　　１０月　救急救命士養成。

平成１８年　１月　加茂分団第６部に小型動力ポンプ積載車（軽）を更新配備。
　　３月　浦村町（今浦）に耐震性防火水槽を新設。
　　５月　潜水士１名養成。

平成１９年　１月　加茂分団第４部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
　　３月　浦村町（本浦）に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　消防本部庁舎耐震補強及び通信室移設工事を実施。
　　３月　鳥羽市防火協会から消防広報車の寄贈を受け、消防本部に更新配備。
　　３月　(社)日本自動車工業会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に配備。
　　５月　潜水士２名養成、水難救助用ドライスーツ（４着）を消防署に配備。
　　６月　高度救命処置トレーニング用シミュレーション人形を消防署に配備。
　　８月　指揮車を消防本部に更新配備。
　　９月　国崎町に耐震性防火水槽を新設。
　　９月　(財)日本消防協会の助成で模擬消火訓練装置を購入。
　　９月　救急救命士養成。
　　１０月　長岡分団第４部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。

平成２０年　４月　消防団員の定数を改め５００人。
　　６月　潜水用資機材（１基）を消防署に配備。
　　９月　防刃チョッキ（救急隊１隊分）を消防署に配備。
　　９月　救急救命士養成。
　　１２月　加茂分団第３部に小型動力ポンプ付積載車、長岡分団第１部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。

平成２１年　３月　松尾町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　１１９緊急電話受令台取替工事を実施。
　　６月　防爆型送排風機及び特定小電力トランシーバーを消防署に配備。
　　８月　ジェットシューター（６０基）及び防火衣（６０着）を消防団に配備。
　　８月　桃取分団及び坂手分団にホースカーを各１台配備。
　　８月　消防署の泡消火薬剤をスーパーフォームからメガフォームに更新。
　　９月　救急救命士養成。
　　１０月　水難救助用ドライスーツ（４着）及び予備ボンベ（４本）を消防署に配備。
　　１１月　重量物排除器具（リフトバッグ）１式を消防署に配備。

平成２２年　１月　(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、答志分団第１部に配備。
　　１月　加茂分団第２部に小型動力ポンプ付積載車、菅島分団第３部に小型動力ポンプ付積載車（軽）を更新配備。
　　１月　安楽島町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　事務連絡車（ハイブリッド車）を消防本部に更新配備。
　　３月　３０m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車（４ＷＳ車）を消防署に更新配備。
　　４月　消防本部の組織を変更し、消防総務室及び予防室を新設。
　　５月　潜水士２名養成。
　　９月　救急救命士養成。

平成２３年　１月　救急車（３台）及び水槽車（１台）の車載電話を更新配備。
　　２月　神島分団に小型動力ポンプを更新配備。
　　３月　消防本部庁舎改修工事（トイレ等）を実施。
　　３月　鳥羽ライオンズクラブから査察指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。
　　３月　東日本大震災発生に伴い、千葉及び宮城県に緊急消防援助隊を派遣。
　　３月　人員搬送車を消防本部に更新配備。
　　３月　桃取分団第１部・第２部格納庫を新築。
　　３月　白木町に耐震性防火水槽を新設。
　　５月　潜水士２名養成。
　　９月　救急救命士養成。
　　１０月　相差町に耐震性防火水槽を新設。
　　１２月　衛星携帯電話（２台）を消防本部に配備。

平成２４年　１月　船津町に耐震性防火水槽を新設。
　　１月　ＡＥＤ（貸出用）を消防本部に配備。
　　２月　携帯用投光器（171 個）を消防団に配備。
　　３月　岩倉町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　高規格救急自動車を消防署に更新配備。
　　３月　消防署雨量計を更新。
　　３月　加茂分団第５部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
　　３月　答志分団（第１部・第３部）格納庫を新築。
　　７月　水災用資機材及び夜間活動用資機材を消防団各部に配備。
　　９月　消防団格納庫（詰所 13 箇所）に災害情報収集用テレビ（デジタル）を整備。
　　９月　救急救命士養成。
　　１０月　多目的防災テントを消防団に配備。
　　１２月　消防携帯無線機（５W型 10 基）を更新。

平成２５年　２月　答志分団に小型動力ポンプ付軽積載車を更新配備。
２月　災害対応特殊化学消防ポンプ自動車を更新配備。
３月　桃取非常用サイレン設置工事を実施。
４月　三重県防災航空隊１名派遣（３年間)。
５月　潜水士２名養成。
９月　救急救命士養成。
１０月（一社）日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、桃取分団第３部に配備。
１１月　携帯電話１１９番直接受信システム更新。
１１月　ビデオ硬性挿管用喉頭鏡（１台）を消防署に配備。

平成２６年　２月　答志分団第２部に消防ポンプ自動車を更新配備。
３月　災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
３月　安楽島町に飲料水兼用地上設置型耐震性防火水槽を新設。
３月　鏡浦分団第３部詰所として旧石鏡保育所を改修。
３月　消防救急デジタル無線活動波設備整備に係る実施設計を作成。
３月　救命ボート（ＦＲＰ製：１台）を消防署に配備。
３月　総務省消防庁から小型動力ポンプ付積載車（軽）及び消防団拠点資機材の無償貸付を受け、小型動力ポンプ付積載車（軽）を桃取分団第１部に、消防団拠点資機材を桃取分団に配備。
４月　消防職員の定数を改め４６人。
５月　潜水士２名養成。
７月　消防団員の定数を改め５１０人。
１１月　長岡分団第１部に消防ポンプ自動車を更新配備。

平成２７年　１月　各離島消防団に救急事案対応用として折りたたみ式ストレッチャーを配備。
１月（一社）日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車の寄贈を受け、神島分団に配備。
３月　神島分団格納庫を改築。
４月　消防救急デジタル無線共通波設備運用開始。
９月　救急救命士養成。
１２月　長岡分団第２部、鏡浦分団第１部に小型動力ポンプ付積載車を更新配備。
１２月　坂手分団第２部に、台車付小型動力ポンプを更新配備。
１２月　消防救急デジタル無線活動波設備完成、運用開始。

平成２８年　３月　鳥羽市消防団が消防庁長官表彰「消防団等地域活動表彰」を受賞。
３月　鳥羽市消防本部・鳥羽市消防団が消防庁長官表彰「竿頭綬」を受章。
３月　鳥羽市消防署南鳥羽出張所が松尾町に完成。
３月　小浜町に耐震性防火水槽を新設。
５月　伊勢志摩サミット消防特別警戒に伴い鳥羽地区警戒本部を設置。鳥羽（船津）現地警戒本部、統括警戒本部へ職員派遣。
５月　潜水士１名養成。
９月　救急救命士養成。

平成２９年　２月　消防庁舎建設基本設計を作成。
　　３月　高規格救急車を消防署に更新配備。
　　３月　潜水資機材（１基）を消防署に更新配備。
　　５月　潜水士１名養成。
　　１０月　総務省消防庁から救助資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車の無償貸付を受け、菅島分団第２部に配備。
　　１０月　屋外用放送設備、記録媒体を消防団に配備。
　　１０月　消防庁舎用地造成工事を開始。
　　１１月　３０m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車のオーバーホールを実施。
　　１２月　潜水資機材（１基）を消防署に更新配備。

平成３０年　３月　池上町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　畔蛸町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　消防庁舎実施設計を作成。
　　５月　潜水士１名養成。
　　９月　救急救命士養成。
　　１１月　志摩生コンクリート協同組合と火災時における消防用水の確保に関する協定書締結。
　　１１月　消防庁舎用造成工事完了。

平成３１年　３月　資機材搬送車を消防署に更新配備。
令和　元年　９月　救急救命士養成。
　　９月　消防庁舎建設工事開始。

令和　２年　３月　消防通信指令システム実施設計を作成。
　　３月　消防庁舎主訓練塔建設工事実施設計を作成。
　　５月　市民から軽事務連絡車の寄贈を受け、消防本部に配備。
　　６月　潜水士１名養成。
　　７月　消防通信指令システム整備工事開始。
　　８月　消防庁舎完成。
　　９月　消防庁舎へリポート運用開始。
　　１２月　消防救急デジタル無線活動波設備ほか通信設備移設工事開始。

令和　３年　３月　消防通信指令システム完成。
　　安楽島町に消防庁舎移転、運用開始。
　　４月　消防団災害支援団員制度導入。
　　５月　鳥羽市防火協会から防火啓発車の寄贈を受け、消防本部に配備。
　　６月　潜水士１名養成。
　　９月　救急救命士養成。
　　１１月　訓練人形、訓練用マットを消防団に配備。
　　１２月　(社)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車（軽）の寄贈を受け、菅島分団に配備。

令和　４年　３月　市民から心肺蘇生法トレーニング人形一式他の寄贈を受け、消防署に配備。
　　３月　高規格救急車を消防署に更新配備。
　　４月　消防団員の定数を改め４９０人。
　　９月　救急救命士１名養成。
　　１２月　高規格救急車を南鳥羽出張所に更新配備。

令和　５年　５月　災害対応特殊消防ポンプ自動車を消防署に更新配備。
　　６月　潜水士１名養成。
　　６月　市民からフィットネスバイク１台、ウェイトトレーニング器具（シャフト）２本の寄贈を受け、消防署に配備。
　　１０月　３０m級伸縮水路管付先端屈折式はしご車のオーバーホールを実施。

令和　６年　１月　能登半島地震発生に伴い、石川県に緊急消防援助隊として職員派遣。
　　３月　総務省消防庁から消防ポンプ自動車の無償貸付を受け、答志分団第４部に配備。
　　３月　長岡分団第１部格納庫新築及び長岡分団第１部詰所として旧長岡中学校を改修。
　　３月　大明西町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　若杉町に耐震性防火水槽を新設。
　　３月　消防庁舎危険物屋内貯蔵所完成。